

マルタ：難船後のもてなし

使徒言行録のマルタでは何が起こり、何が不確かですか。

使徒言行録は難船後に着いた島をマルタと記し、ローマへ向けて出航する前のもてなし、癒やし、越冬を描きます。島名は明示されますが、正確な浜辺や、現代この物語と結び付けられる場所のすべてを確定できるわけではありません。

親切に迎えられた生存者

難船の物語は全員が陸に着いて終わり、次の章でマルタの名が示され、ぬれて寒さに震える生存者のために火が用意されます。地元の人のもてなしが場面の中心です。蛇の出来事後に島の人々のパウロへの見方が変わったことを、科学的な種の同定や、住民全体の知性の評価として扱ってはいけません。

聖書の参照箇所: 使徒言行録 27章39～44節・使徒言行録 28章1～6節

出典: acts

プブリウスと病人への配慮

使徒言行録はプブリウスを島の長として紹介し、その歓迎、父の病気、パウロの祈りと癒やしを記します。ほかの人々も癒やしを求めて来ます。この物語は神がパウロを通して働かれるというキリスト教の信仰を表します。案内はその主張を明確に伝え、考古学的発見が奇跡を独立して裏付けたかのように語ったり、本文を超えて病気を診断したりしてはいけません。

聖書の参照箇所: 使徒言行録 28章7～10節

出典: acts

誠実に航路をたどる

三か月後、一行はそこで越冬したアレクサンドリアの船で出発し、名のある寄港地を経てイタリアへ向かいます。現代の航路図では、明記された場所と再構成した航路、不確かな上陸地点を区別すべきです。マルタは文化を超えて親切を受け取る重要な学びを与えます。投獄中の使徒と仲間も他者の配慮を必要とし、宣教には教えるだけでなく、もてなしへの感謝も含まれます。

聖書の参照箇所: 使徒言行録 28章11～16節

出典: acts, chronology

出典

- [acts] Acts 7–28; passage references are supplied in each section. <https://ebible.org/web/ACT.htm>
- [chronology] Pauline Letters chronology: Acts, the letters, dated external anchors, and explicitly qualified reconstructions. <https://paulineletters.com/explore/timeline>

独自に制作した本文と画像：CC BY 4.0。聖書本文と第三者の素材は対象外です。

Pauline Letters · CC BY 4.0 · <https://paulineletters.com/ja/explore/resources/malta>